

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第26回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「愛鳥週間」  
あいちようしゅうかん



昭和37年の愛鳥週間ポスター

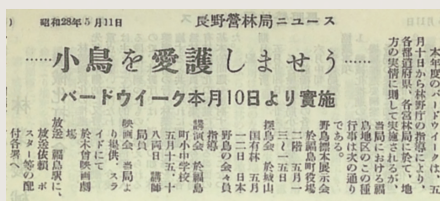
現在も続いている「愛鳥週間」(バードウィーク)は昭和二十五年に定められたもので、五月の十日から十六日までとされています。

昭和二十年代の資料を見ますと鳥類の愛護という内容と同時に、野鳥は害虫を食べるから有益であることや、狩猟対象としての解説がされています。



キジの放鳥

昭和42年、金華山国有林(岐阜市) / 昭和44年、城山国有林(木曾町)



昭和28年5月11日の「長野営林局ニュース」より



愛鳥週間には各地の営林署等で採鳥会(バードウォッチング)、野鳥に関する講演会、教育用映画の上映会などが行われる場合もあつたようです。

また、愛鳥週間に限りませんが昔の営林署の行事ではキジなどを放鳥することも行われていました。

現在も戸隠山国有林(長野県長野市/北信森林管理署管内)での恒例行事として行われている中学校の生徒さんによる小鳥の巣箱掛けは、昭和四十二年の愛鳥週間に小学六年生の行事として行われたものが最初でした。



昭和四十二年、愛鳥週間の戸隠山国有林にて小鳥の巣箱掛けを行う小学生たち

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。

